



## 花き生産情報第1号

平成28年4月20日発表  
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

---

施設内の温度変化が激しい時期です。適正な栽培管理により高品質な花きの生産に努めましょう。

---

### 夏秋ギク

#### 1 生育状況

8月上旬に出荷する作型で使用する苗は、生育が順調であることから定植作業は予定どおりに進むことが見込まれる。病虫害の発生はほぼ見られていない。

#### 2 今後の作業

##### (1) ほ場の排水対策

滞水しているほ場では、排水対策を充分に行い定植に備える。

##### (2) 育苗

ア 挿し芽後は、10～25℃を目安に、こまめな換気等を心がける。定植1週間前からは徐々に低温にならし、順化させる。

イ 過湿などによる白さび病の発生防止のため、苗の定植前に薬剤を予防散布する。

##### (3) 定植

ア アザミウマ類の発生防止のために、ほ場や施設周りでは定植前に古株や雑草などの残渣を徹底的に片づける。

イ 十分な生育量を確保するため、定植作業は4月下旬～5月上旬までに行い、老化苗は、生育が劣るので使用しない。

##### (4) 定植後の管理

ア 4月から5月の晴天時は、施設の温度が急激に上昇するので、換気をこまめに行う。

イ 低温や降霜が予想される時は、保温資材で二重被覆する。

### トルコギキョウ

#### 1 生育状況

越冬栽培の生育は、暖冬の影響で全般にやや早まっている。

苗の生育は順調で、定植作業は平年並みの3月下旬から始まり、今後6月にかけて順次行われる見込みである。病虫害の発生は見られていない。

#### 2 今後の作業

##### (1) 育苗

ア は種直後は発芽適温である20～25℃で管理し、発芽が揃った後は徐々に温度を下げ、15～20℃で管理する。

イ 育苗中は用土が乾燥しないように注意し、十分かん水する。

##### (2) 定植床の準備

ア ほ場は、連作にならないように選定する。

イ 土壌消毒を行ったほ場では、土壌中の窒素量が増加するため、土壌診断に基づき基肥の量を減らす。

ウ 土壌酸度の矯正及び基肥の施用は定植2週間前までに済ませ、土に十分な

- じませておく。
- エ 初期の水分が不足すると、根の生育が抑制され切り花品質が劣るので、うねを作る前から水分が下層部へ行き渡るように十分かん水する。
  - オ 乾燥の恐れがある場合は、うね面に被覆資材を張り乾燥を防止する。

### (3) 定植

- ア 活着促進のため地温は12℃以上を確保する。定植後は土を落ち着かせるようにかん水して活着を早める。
- イ 8月上旬出荷の作型では、4月下旬を定植の目安とする。
- ウ 老化苗は生育が劣るので、本葉が4枚展開するまでに定植する。

### (4) 定植後の管理

- ア 発らいまでは乾燥させないように管理する。
- イ 気温が25℃以上になると生育の停滞やロゼットの要因となるので、換気等温度管理を徹底する。

花き生産情報第2号は平成28年5月19日発行の予定です。

~~~~~  
春の農作業安全運動を展開中です(4月1日～5月31日)  
~~~~~

決め手は土づくり! 「日本一健康な土づくり運動」展開中!  
~~~~~

◎農薬危害防止運動(5月1日～8月31日)

- 1 ラベルの記載事項を守りましょう。
- 2 防護服をしっかりと着用しましょう。
- 3 周辺環境への配慮をしましょう。

～農薬情報([http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n\\_info/](http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/))～  
~~~~~

---

連絡先 農産園芸課冬の農業推進グループ  
県庁内線 5081  
直通 017-734-9485

---